

内部揚力推進エンジンの発明の使用許可について

発行日 2022年2月2日

〒140-0011 東京都品川区東大井 5-25-1-308

グラビティエンジニアリング(株)

代表取締役 都田 隆

内部揚力推進エンジンの発明を世界の各種組織で使用できるように開放することにした。

■経緯

以前は内部揚力推進エンジンの発明（詳しくは以下の文書参照「内部循環流体による竜巻推進エンジン（揚力型）の構造と試作(2019.3.13 公開文書)」、「内部循環流体による竜巻推進エンジン（揚力型改）の構造と実験(2020.2.6 公開文書)」を自社で実用化しようと考えていた。このような特殊な発明は他社で採用されることは稀で、自社開発するのは普通の方法だった。

ところが、新型コロナで世間一般的に身動きが取れなくなった。ほとんどすべての組織は方針を変更することになった。以前なら外国資本を利用する方法もあったかも知れないが、非現実的となり、しばらく放置していた。未知の局面に立たされたとき新たなことをしないようにするのは普通の考えだ。

従来、人類の宇宙空間での推進エンジンはロケットエンジンぐらいしかなかったが、効率が悪く巨大な割にロケットの推進力は数分しか継続できないようなもので、とても遠くの惑星との往復のような用途には利用できなかった。

内部揚力推進エンジンのエネルギー源に既存技術である原子力による発電（恒星の近くならソーラー発電でもよい）を使えば、永久に加速し続けることができる。遠くの宇宙の星と往復することができ、その燃料費はほとんどかからない。

内部揚力推進エンジンの発明は画期的で、本格的な宇宙開発に利用できる。地球の資源には限界があるが、宇宙は資源の宝庫であり埋蔵量に限界がない。新天地への移住も魅力的だ。幸せになるかわからないがプライベートプラネットも持てるようになる。地球温暖化などの問題は人類にとって地球が小さくなり過ぎたことが原因であるから、宇宙に進出できれば自ずから解決される。地球の核ゴミなんかは月のダークサイドにでも捨ててしま

えばよい。しかしながら、何百年も間違っただけを続けていけば、それがスタンダードになる。化石燃料を使い始める前までは人類は持続不可能なことをしないように注意していたが、化石燃料を使い出してからはそんな感覚は麻痺してしまった。現在の世界を支配しているのは持続不可能な方法を使った既得権益者であるから、それを変更するのは容易ではない。ビジネスは裏では全て繋がっており、望まない人がいるようなことを進めるのは難しい。今までのやり方を続けたい人の気持ちもわかるが、宇宙に進出できなければ人類文明はこれ以上発展できず、地球資源と運命を共にすることになる。持続不可能なことを始めたのは仮のことで、資源が枯渇する前に解決策を見出さなければならないという最初からわかっていたことを忘れるべきではない。水槽のような閉じたエコシステムにおいて、生息できる生物量には限界がある。人類は干上がりそうな湖の魚類から両生類に変わるような転換点にいる。

物理の専門家は何をしていたのか、どうしてわからなかったのかと思うかも知れないが、誰にとっても、世界の誰にもわからないようなことをやらされることほど厳しいことはなく、過去数百年に渡ってわからなかったのは難しいことだったからだ。誰かのせいにするのではなく、時間がかかっても結果的にわかればよい。わかってしまえば簡単なことだったが、どうしてわからなかったのか。記憶することと理解することを混同してはいけない。理解していれば教科書に書いてある誤りを見つけ出すことができる。理解するとは自分が持っている他の知識と相互に矛盾しないと納得できることだ。誰が言ったかは関係ない。ガリレオの2000年には及ばないが、過去の知識を修正する難しさは現代も継続しており、過去数百年間違い続けていたことがわかったから転換点になるということだ。

化石燃料を使っていればやがて必ず枯渇するので、人類が生き残るためには異なる方法に嫌でも変更しなければならない。地球単独でやりくりする方法は理想的ではないし実現も難しい。物凄く広い宇宙の中でとてもちっぽけな地球に引きこもっているより、遠い宇宙に行けるようになることが全ての人を豊かにする理想的な解決策になる。小さな地球上での権益を求めると、膨大な宇宙の権益を目指す方が効率がよい。戦域は行動範囲に比例するから、地球上での戦争を無くしたいなら、人類の行動範囲を宇宙に拡張すればよい。狭い場所に閉じ込めておくからバトルになるのであって、広大な場所があれば接する機会もない。破滅敵な気分にならなければ破滅敵なことにはならない。

そのために必要なことは単なる移動手段の発見だけだった。

新型コロナで停滞していた間に世間ではこの発明を使用したいという人がかなり増えたように感じられる。今までのやり方を続けられないとわかったか、宇宙の財宝に目が眩んだかだ。他の人や組織にやっていただけなら、自分でやるより遥かに効率がよく、自分

でやらずに済むのはありがたい。自分でやろうとすると邪魔の継続性から難しいところがあるが、今では自分が発明の使用を許可しないことで人類文明の発展を妨げているような一面もある。結果的に圧力が高まると推進力が上がる面もあるが、弊社単独では困難であり、巻き込んでしまって迷惑かも知れないが、世界の多くの人ができる機会を提供したい。

国や組織の善悪を誰かが判断することは簡単ではない。学者が著作権を放棄するなら、全ての人ができるようになる。自然は誰のものではない。全世界のあらゆる組織に本発明の使用を後払いの有償で許可することにしたい。無償にするのは知的生産物や資本主義を無価値にすることに繋がるのでやめた方がいいのだと思う。多様性や平等な自由競争は相互補完の自然のエコシステムと同じで優れている。どこかの国に突出した優位性を付与すると、他国との軋轢の要因となり、出る杭は打たれるようなことにもなるので、平等にする良さもある。今まで本発明に関して弊社では1円の収益も上げておらず、創業以来一人会社を継続しており、発明の使用者の許認可の審査のような高コストなことはしない。

■内部揚力推進エンジンの発明の使用条件

- ・既存の物理常識を超越したものは特許として認められないとされており、知的所有権は著作権を利用している。
- ・原則的に発明の全権は発明者が持っており、本発明の著作権は弊社が持っている。本発明とは内部揚力推進エンジンのものである。
- ・大小2つの回転する円盤の相対位置を変化させ重心を空間的に非対称にして重力制御による推進力を発生させる都田個人の25年前の古い発明を使用することも認める。
- ・発明などの知的所有権を尊重しなければ人類文明が崩壊することになるから知的所有権は保護されており、発明の使用者は自発的に使用料を払おうとするものであり、請求されるまで払わなくよいというものではない。
- ・著作権で保護される本発明を利用する組織は弊社に発明の使用料を支払わなければならない。
- ・本発明を使用する組織は、対外的に製造販売する最小ユニットの本体価格の3%相当を発明の著作権料として弊社に支払わなければならない。
- ・最小ユニットとは「内部揚力による推進エンジン」のことであり、エンジン単体として

製造販売可能ならば、それが最小ユニットになる。旅客機に搭載されるジェットエンジンが旅客機本体の付加的部品の扱いになるのと同様である。

- ・発明の使用者は弊社の許諾がなくても商品を製造販売できる。弊社では許認可のような高コストの作業は行わない。製造販売した場合は製造販売後の売り上げを計上した1年以内に所定の使用料を弊社に支払わなければならない。後払いの為、弊社に騙される心配はない。

- ・自組織内で製造したものを自組織内で使用する場合は最小ユニットの製造コストの3%相当を発明の使用料として弊社に支払わなければならない。

- ・組織内での研究用途の試作は自由に行うことができる。

- ・本発明は弊社のオリジナルで他者の真似をしていないことを宣誓するが、競合する可能性はゼロではない。提供する知的所有権の使用料は完全に一致することがない著作権に対するもので、他社との係争について弊社は関知しない。弊社に発明の所定の使用料を支払うことで弊社から知的所有権侵害の訴訟を受けることはない権利が得られるもので、発明の独占的な利用権を付与するものではない。

- ・使用料の弊社への支払い義務は著作権の保護期間内での実施に適用される。

- ・本発明の使用料の支払いが適正ではない場合、本発明を使用することはできない。

- ・資本主義を否定するつもりはない。宇宙に拡張すれば拡張的な資本主義は継続できる。株式会社は営利を目的としており、人類文明のために知的生産物の価値の対価は支払っていただく。

- ・本文書で定めたルールは、弊社の代表者が移転した場合でも継続するものとする。ルールを変更する場合は、使用料の支払いを行った組織と弊社との間で個別に合意を得るものとする。使用料の支払いを行った組織と合意が得られない場合は、旧ルールを継続するものとする。使用料の支払いを行っていなかった組織は新ルールの適用を受けるものとする。

- ・発明の使用料は以下の銀行口座に振り込むものとし、振込手数料は振込者負担とする。

口座番号	三菱UFJ銀行 大井町支店(357) 普通(2) 3982807
口座名義	グラビティエンジニアリング(カ)

・発明の使用者は発明の使用料の振込後に以下のEメールアドレスに明細を送付することが望ましい。(テキスト形式で書式自由)

invent@graveng.jp

・何らかの要因で口座番号が無効で振り込めない場合は発明の使用料を弊社に支払う必要はない。

■おわりに

もう私が何もやらなくても最終的なところ(遠い宇宙)まで到達可能になったと思う。私がやろうとすると進まなさそうだが、私がやらなければ埒りそう。集中点は問題あった。25年以上にもなる長い話はこれで終わりになることが望ましい。なす術もなく滅んでいくより解決策があった方がよい。私とていつまで生きていられるかわからない。次があるとは限らない。パスは出したからシュートを決めてほしい。宇宙へ行けるか否かが生き残れるか否かの卒業試験のようなものだ。人類の将来は世界の実行力がある方々に期待したい。

以上